

# 親心の正体を探る

京都市立衣笠中学校第1学年

## 目次

1.	本研究の目的	2
2.	カード化	2
2.1.	目的	2
2.2.	方法	2
2.3.	結果	2
2.4.	考察	3
3.	グループ作り	5
3.1.	目的	5
3.2.	方法	5
3.3.	グループ作り①（失敗編）	5
3.3.1.	結果	5
3.3.2.	考察	6
3.4.	グループ作り②（練習編）	6
3.4.1.	方法	6
3.4.2.	結果	7
3.4.3.	考察	8
3.5.	グループ作り③（成功編）	8
3.5.1.	結果	8
3.5.2.	考察	9
4.	概念図づくり	10
4.1.	目的	10
4.2.	方法	10
4.3.	結果	10
5.	結論	10
6.	おわりに	12

## 概要

### A. はじめに

僕は、2017年の6月よりペットの“サクラ”（ネコ、種はベンガル）に対する、自分の感情について研究を進めてきた。「なぜ、うちの猫はかわいいのか」という疑問をもとに始めた。まずは、かわいいものやカッコいいものはどんなものか探る。自分が思ったかわいいものを探した。自分の思うかわいいもの、カッコいいものの共通しているところと共通していないところを探りサクラのことが好きということが当たり前のように思えるということが分かった。そしてその最後に「親心」というキーワードが出てきたので、「親心」という感情について研究を進めることとした。

### B. 研究の方法と結果

まず、サクラの行動を写真や動画におさめた。おさめた写真を簡単な一文で表現し、それをカードに記した（カード化）。「親心」はそのカードを分類することでその正体を探ることにした。そのカードを使ってストーリー作り（親心についての概念づくり）をすることで親心を導いた。自分が寝ている間にどんな行動をしているのかも知りたかったので、その時間帯にはスマートフォンを固定して、動画を撮影した。カード化からストーリー作りまでの手順は以下のとおりである。

- A. 写真や動画を撮影する。
- B. 撮影中の行動を、「～している」など動作がわかる簡単な一文にする（カード化）。
- C. 〈親心〉をもとに自分の「似ている」という感覚でグループを作った（小グループ）。
- D. 小グループそれぞれに名前をつけた。
- E. ③と④を繰り返し、中グループ→大グループを作成した。
- F. 大グループのグループ名同士の関係性を矢印などで明らかにし、〈親心〉とは何かを探った

### C. 考察・結論

この研究を通して考えた親心は、「知りたい」が繰り返す気持ちである。いろんな感情があり、その中に「育ててあげるのは僕だ」という気持ちが芽生えたときや親として育てる気になったときに親心がうまれる。友達感覚で飼っているのならばそれは親心ではなく友情だと思う。友情は、真の愛情ではないと思う。具体的に言うと友情の前提は友達だ。友達という感覚で世話をする人の場合、誰かがやってくれるだろうという考えがあるということだ。また、友情は好きという気持ちでもあるが育ててあげようとは思わないはずだ。

毎日、一生懸命お世話をして毎日（心の中）で会話する中でやっとペットを子どものように扱うようになる。ペットに対しての気持ちの変化の最後が親心だと僕は思う。

### D. 次への展望

研究の中でそもそも親心という感情を持っているのは僕だけなのだろうか気づいた。ほかの人が自分のペットをどう思って育てているのかを知りたいのでペットを飼っている人にアンケートを試みる。

さらに、本研究のもとになった「お母さんが僕にしてくれているように僕はサクラに親心をもっている」ということを確かめるためにお母さんにもアンケートをする。そして、お母さんから僕への親心と僕からサクラへの親心に違いがあるかを確かめる。

## 本研究の目的

前回の研究「動物飼育を通して生まれる感情について」では自分が思うかっこいいもの探し、かわいいもの探しをした。そして、分類分けすると哺乳類が一番多かった。この結果から、サクラ（飼い猫）が好きということ理由を1つ分かった。しかしこれだけでは、なぜか自分の中で引っかかりがあった。その引っかかりを解くために考えたことを考察それがすると、親心というキーワードが浮かんだので「親心」が何かを明確にするため研究を進めることにした。

# 1. カード化

## 1.1. 目的

親心を探るためにサクラの日常的な行動を整理すること。

## 1.2. 方法

スマホのカメラでサクラの行動を撮る。また、長時間撮るときはスマホをその部屋全体が場所にカメラを固定して置く。僕がいないときや夜寝ているときなど直接の撮影が不可能な場合は動画を撮る。動画は一回につき大体、7~9時間ぐらい撮る。動画を撮る理由は、僕がいないときにサクラがどのような行動をとっているか知るためである。画像や動画のうち、ぶれていたりしたものは排除し、行動として分かるもの37枚を選んで使う。撮影した行動ごとに、「~している」など動作がわかる簡単な一文にし、紙片に書いた（カード化）。また、サクラの行動を目にしたときの自分の感情について書いてあるものもある。



図1 カード化の例（勉強の邪魔をする）

## 1.3. 結果

撮影したサクラの行動やサクラの行動にもとづく自分の感情、サクラを飼って知った知識を表にまとめた。

表1 カードの内容

走り回ったら息切れする	ついてくる
勉強の邪魔をする	寝顔

トイレをしたら砂をかける	暑かったら涼しいところへ寒かったら暖かいところへ
床暖が効いているところを選んで寝る	餌の袋を出すと餌と分かって来る
初めのものは気になる	耳がいい
動くものすべて好き	ふかふかのところ好き
高いところ好き	毛を逆立てる（こわいときやびっくりしたとき）
飼っている側アレルギーで悔しい	サクラを寝かすつもりが自分が寝た（恥ずかしい）
自分以外の人に「仲いいな」って言われる	TVを見ていたら一緒に見る
一緒に寝る（上に乗られると重い）	ものに体をぶつけても痛がらない
素早い	爪切りを嫌がる
食べたらだめなものがある（かわいそう） （チョコレート、スナック菓子など）	うで傷だらけで痛い
ベンガルは柄に種類がある	本能が出やすい（何かを見つけたとき体勢を低くする）
暗いところが好き	服の中好き
珍しい	ひもがすき
水嫌いだがお風呂に入りに来る	僕がサクラのことを「この人」っていう
爪とぎはどこでもする	目の形が変わる
暖かいのが好き	ふみふみする（お母さんのお乳を出す仕草）
こたつの中は入らず上にいる（2018年1月7日ぐらいから入りだした）	人間の食べるものを食べにくる

計38個のサクラの行動やサクラの行動にもとづく自分の感情があった。

## 1.4. 考察

ペットショップの店員さんが「野性のベンガルは初めて目にするものには敏感だよ」と教えてくれた。毎日一緒に過ごしていても「野生のベンガルは初めて目にするものに敏感」だと分かった。さらに、初めてのものが好きなことも分かった。一方でサクラが数秒カメラを見たのでサクラに撮影を気づかれてしまったが、サクラは初めて見るカメラを気にしないようだった。初めてのものが好きなサクラなのにカメラは気にしなかったのはなぜだろうと思った。この疑問からこんな仮説が立つ。サクラは人と同じように気分や場合によって態度を変えられるということができる。

サクラのとった行動に対しいろんな感情があった。表を見ると「悔しい」「痛い」などネガティブな感情が多くポジティブな感情が少ないため知らないうちに僕がサクラに対してストレスを感じているのではないかと思った。その理由は、何もしていないのにぼくに噛みついてきたりすることが僕のストレスの原因なのかなと考える。また、その

行動に対して叱るときがある。叱るというのは愛情の一つだ。あくまでもその人との間であったことに対して「叱る」。一方で日常であったサクラに関係のないイライラも一緒にぶつけることは「叱る」ではなく「怒る」だ。相手のことを思って言うことだから叱るということは一種の愛情表現なのだ。このことから、好きだからネガティブな感情が出ると考えた。

## 2. グループ作り

### 2.1. 目的

概念図を作るためのストーリー作りが概念図を作るときにスムーズに行くよう土台を  
しっかり作る。

### 2.2. 方法

#### 2.2.1. グループの作り方

最初に行ったグループ分けは、カード化したグループを〈親心〉をもとに自分の  
「似ている」という感覚で小グループにしその小グループに名前を付ける。これ  
を、繰り返し、中グループ→大グループにしていく。グループ作りは、親心を探る  
ためのキーワードの数が必要最低限になるまでグループ化を繰り返す。

#### 2.2.2. 理科的なグループ分けとの違い

理科的な分け方は、先に誰かが研究し答えがあるため誰が分けても同じ結果にな  
る。或いは、主観をなくしたり既に明確になったルールに従って分類分けをする  
ということ。

生き物の種類を理科的にわけると下の表のようになる。

表2 理科的な分け方の例

哺乳類	鳥類	爬虫類・両生類	魚類
イヌ	タカ	トカゲ	サンマ
ネコ	ワシ	ヤモリ	イワシ
クマ	カラス	サンショウウオ	マグロ

これは、誰がやっても同じ結果になる。例えば、イヌが魚類のところには分類されない。

### 2.3. グループ作り①（失敗編）

#### 2.3.1. 結果

大グループの名前を付けるときに失敗した。その理由は中グループから大グループ  
するときに親心の視点がなく分けていたから失敗したではないかと思う。

表3 サクラの行動のグループ化

サクラがすきなもの	暖かいのが好き
	高いところが好き
	暗いところが好き
	服の中が好き
	ひもがすき

	動くものすべて好き
	ふかふかのところがすき
サクラの苦手なもの	爪切りを嫌がる
感情が入っている	飼ってる側アレルギー 悔しい
	食べてはいけないものがある かわいそう
	腕傷だらけ 痛い
一緒という言葉が入っている	一緒に寝る
	一緒にテレビを見る

### 2.3.2. 考察

なぜ僕がこのやり方を失敗だと決めたのかは、1つは、ストーリー作り進展がなかったから。また、これでは自分の思う親心が見つからないと感じたからだ。もう1つは、理科的な分け方になるからだ。今この論文を読んでいる人は理科的な分け方でもいいと思うかも知れないがこの研究は他の研究と少し違う親心の研究だからいけないのだ。どう違うかという親心には100人いたら100通りの親心があり、1000人だったら1000通りの親心がある。端的に言えば研究に感情を用いているかいないかの違いだ。だから、親心が理科的な分け方でやるのはいけないのだ。

理科的な分け方は図鑑を見たりしたら答えがわかるのだが、僕の研究は答えはあるが今までにはない新しい答えを生み出すため理科的な分け方でグループ分けすると親心を踏まえていない結果になることが分かる。

もう一つのつまづいた過程がある。グループ分け後に行う概念づくりだ。なぜなら、概念図を作るとき、親心を用いて概念図を作るのが難しくなかなか進まなかった。また、瞬時に思ったことが言葉にならないからだ。だから、土台のグループ作りを直していかなければならない。そのためには、グループ作りをからやり直す。

## 2.4. グループ作り②（練習編）

### 2.4.1. 方法

目を閉じたままカードを手取る。目を開けたとき瞬間的にカードを見て思ったことを自分の直感的な「似ている」という感覚でまとめる。そのグループの名前を簡単な言葉で書く。また、瞬時に思ったことが言葉にならなかったときや時間がかかったときはそのカードを後回しにして頭をリセットしてから次のカードに行く。次に、分けたものを自分の「似ている」という感覚で分けた。

## 2.4.2. 結果

気になる



ゆうか



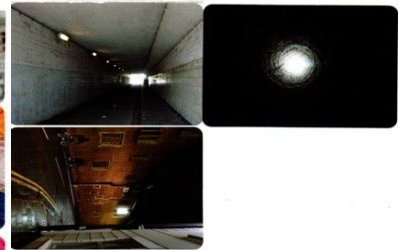
同じもの  
いっぱい



にきゅか



あと少し



難しそう



形が同じ



気になる



二つ  
一つ



一つの  
を狙う





### 2.4.3. 考察

上記の方法ですとスムーズにいったし、簡単に感じた。それは、長く考えず素直な第一印象でかけたから簡単に感じたのだと思う。また、書いた言葉を見直すと簡単な言葉で書いてあったし、簡単な言葉でまとめるのが大事だと分かった。また、自信も付いた。

## 2.5. グループ作り③（成功編）

### 2.5.1. 結果

2.2の方法でもう一度グループ作りをした。

表4 グループ化の結果

興味がわく	そうなんだ	野生の本能が出やすい
		暗いところが好き
		服の中が好き
		珍しい
		ひもがすき
賢い	かわいい	息切れをする
	頭いいなあ	後をついてくる
		邪魔をする
		サクラの寝顔
		トイレでうんことおしっこしたら砂かける
		暑かったら涼しいところへ、寒かったら暖かいところへ
		床暖が効いているところを探す
餌の袋を出すと餌と分かって来る		
感心する	俺と反対	高いところが好き
共感する	俺と一緒に	はじめてのものは気になる
		耳がいい
		動くものはすべて好き
		ふかふかのところが好き

わがまま	なんで	水嫌いだがお風呂入りに来る
	違うのほしい？	サクラを「この人」っていう
		爪ときどこでもする
		目の形が変わる
		温かいのが好き
		ふみふみする
		こたつの中は入らず上にいる
		人間の食べ物を食べにくる
人に対して思うことと似てる	こわっ	毛を逆立てる
	悔しい	飼ってる側アレルギー
	恥ずかしい	サクラを寝かすつもりが自分が寝た
	うれしい	「仲いいなあ」って言われる
	びっくり	TV見ていたら一緒に見る
		ものに体をぶつけても痛がらない
	かわいそう	一緒に寝る、上に乗られると重い
	いたい	素早い
		爪切りを嫌がる
		食べたらダメなものがある
腕傷だらけ		

### 2.5.2. 考察

自分の感情のところを見ると人間に対して思うこととサクラに対して思うこととが似ているなと感じた。例えば、食べたらダメなものがある。このことから、この感情を見ると「かわいそう」とあるが、その感情は人間に対しても思う言葉だ。例えば、サクラにも人間にも食べれないものがあるとすると、かわいそうという感情を持つ人の方が多いのではないだろうか。僕以外の人にもこのような感情をいただくのかを聞き込みアンケートすることでサクラに対して思うことと人間に対して思うことが似ているということを明確にすることができる。

### 3. 概念図づくり

#### 3.1. 目的

大グループ同士を矢印などで結び、関係性を明らかにすることで、「親心」にたどり着くため。

#### 3.2. 方法

まずは、大グループのカードからスタートのカードを決め、物語を考えながらまとまりを作った。その後、枠や矢印を書いて関係性を明確にし、親心の概念図を作った。

#### 3.3. 結果

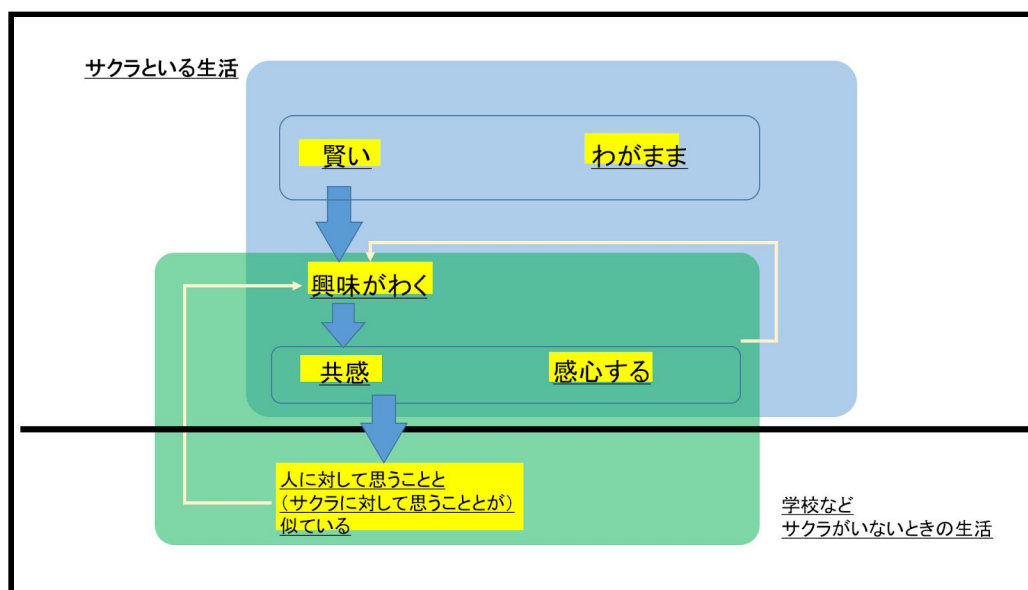


図2 自分のサクラに対する「親心」の概念図

僕の考える親心はあるサイクルになっていることを表している。僕が「賢い」「わがまま」と思うサクラの行動からサクラに「興味がわき」、僕が「共感」したり「感心する」ことがある。さらにそこからまた「興味がわく」というサイクルだ。

また、学校などサクラがいないときの生活でもサクラのことを考えている。僕は友達の行動をサクラの行動に照らし合わせているのだ。例えば、サクラはチョコレートやアーモンドなど食べてはいけないものが多い。これに対してかわいそうだと思う。これはサクラに限ることではなく、人でもアレルギーにより食べたくても食べてはいけなかったりする人にもまた、かわいそうだと思う。このことから、サクラには、「ペットとして」かわいそうだと思うのではなく、「人として」かわいそうだと思っていて、僕はサクラと人間に境目を感じていないということがわかる。そして、友達とサクラの行動を照らし合わせていることに対して「興味がわき」、僕が「共感」したり「感心する」ことがある。そこからまたさらに「興味を持ったり」、次の行動を照らし合わせることに移るといサイクルだ。

サクラとは、サクラと人間に境目をなくしたことでペットとしての関係ではなく親子の関係になったといえる。僕の考える親心は「知りたい」が繰り返す気持ちだ。このサイクルを自然に行えているのであればもうそれは親心といえる。また、ペットに対する気持ちがどんどん変わっていく中でその最後が親心だと思う。だから、親心という感情になったときは飼い主が相手のことを十分に知っているということだ。

## 4. 結論

僕は、親心を探るというテーマで研究を進めてきた。僕が考える親心というのは、生活していく中で「『知りたい』が繰り返す気持ち」という結果になった。ペットを飼っている人（みんな）が同じ親心を抱くかと言われれば一人一人少し変わった親心になると思う。なぜなら、ペットを飼っている人が自分のペットの行動に対して思うことと僕がサクラの行動に対して思っていることが違うように概念図の形も内容も違うと思う。だから、ペットを飼っている人（みんな）が同じ親心を抱くかと言われれば一人一人違う親心になると考える。だから、その親心にはペットを飼っている人のそれぞれの個性が出ると思う。

また、自分が親という自覚をもって行動するようになったときがペットとの関係の始まりだと思う。僕の場合、おばあちゃんが自分の子どものように向き合って飼い猫と接していたのを見て「こんな関係になりたい」と思ったのがサクラとの関係の始まりだからだ。アレルギーを持っているため心の片隅でサクラと深く接してない自分がいた。でも、例えば、くしゃみが出てもサクラの方が大事だから深く接してみたり、いろんなことを乗り越えるとネコアレルギーがなく育てる人よりも深い親・子になったと思ったから「もっとがんばろう」と思えた。だから、より深い関係に変わったと思う。

「知りたい」が繰り返す気持ちが繰り返すと親としての責任感・より深い愛情に変わってくる。「知りたい」が繰り返す気持ちが繰り返されるということは、ペット（子）のことをいざい知るといことで、そうすれば、接し方も変わるはずだ。少しの気づきや工夫が親としての責任感・深い愛情につながってくるのだ。

また、先に、ペットを飼っている人はそれぞれの親心を持っているだろうと述べたが、本当にみんなそれぞれの親心を持っているのだろうか、ということ詳しく調べ、分類わけするためにペットを飼っている人にアンケートを実施する。また、僕を育ててきたお母さんは子育ての先輩だからそんなお母さんの親心についてもアンケートを取る。

僕は自分の研究を見てもらい色々な人に自分なりの「親心」という感情を持ち子どもやペットを育てるうえで参考にしてもらいたい。そして将来的には、虐待をしたり、「親心」という感情を捨て「親」という立場も捨てた飼い主などを少しでも減らせる人材になりたい。

そんな人材になりたいと思ったきっかけは、サクラを飼い始めて一年がたったころ天才志村動物園という番組で、捨て犬・捨て猫を優しく引き取り、親心という感情を持ち温かく育てている人を見て、この人みたいなことをしたいと思ったからだ。

これまでやってきた親心の研究などは捨て犬・捨て猫たちを保護したときに生きてくると思うので次の研究でも自分なりの答えを導いていきたい。さらに、僕がTVに出た人に思ったように「この人みたいになりたい」と思ってもらえるように努力をしていきたい。

## 5. おわりに

僕はこの研究で自分の心とその時の感情が2種類に分かれていることが分かった。1つは頭の中で考えていることを全面から見ることができる状態で、もう1つはその頭の中で考えていることを一面だけしか見ることができていない状態のことだ。全面が見えているときは楽しく気分も乗っていて視野が広がり、全面を見ることができるため自分の思考がしっかり分かり研究や論文執筆もはかどる。だが、気分も乗らず視野が狭くなり一面だけでしか見えないときは、図のように思考が別の思考にかぶってしまい、すべての思考を用いるのが難しくなって研究や論文がはかどらなくなる。

気分などで研究の進み具合が変わる。はかどらない日もあるがやりたいという感情があるから続けてこられている。また、気分が乗らないときは、家に帰り頭の中をリセットさせ忘れることで次につなげていた。

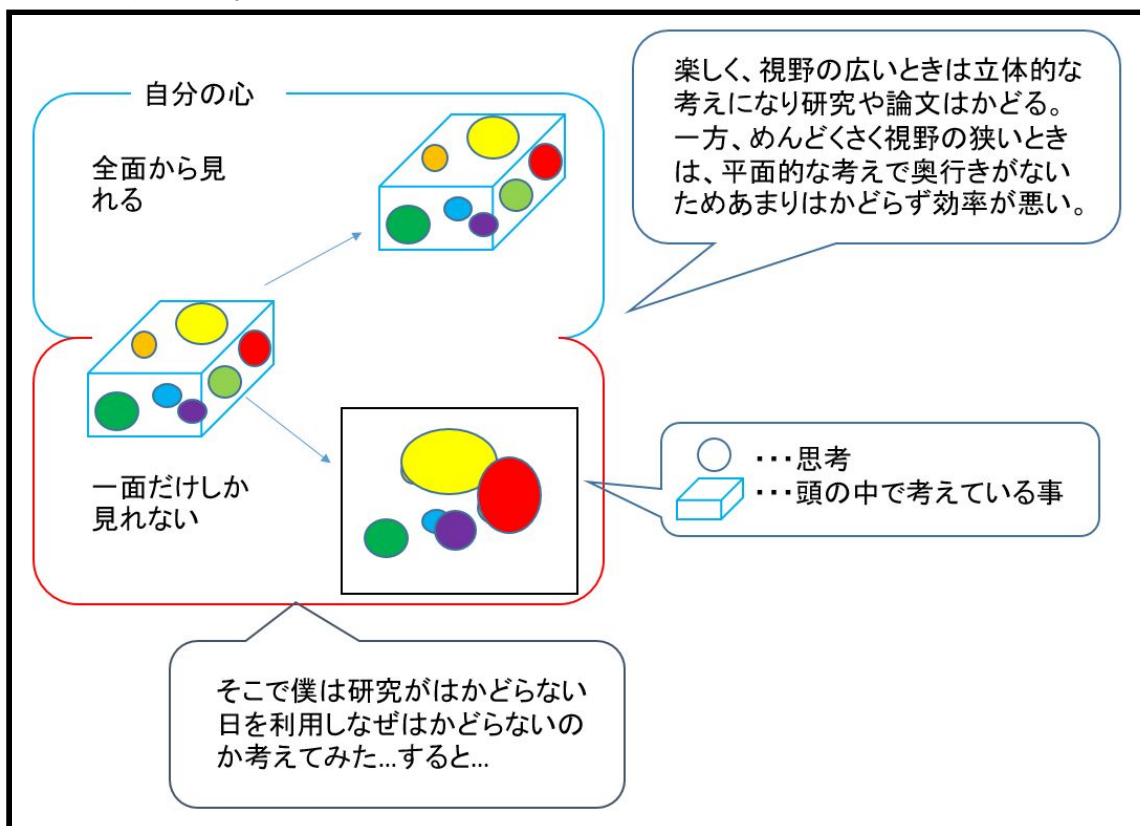


図3 自分の心とそのときの感情

毎回の研究を質の高いものにするためには、その日の気分が大事になってくる。ずっと気分が上がらない日が続くと研究のはかどらない日が続いてしまうので僕は自分の好きな雑談をして気分を上げてから研究にとりかかることで毎回の研究が質の高いものになる。気分は研究以外の日常で上がったたり下がったりしてしまう。例えば、体育祭で優勝した日はモチベーションは高いが、足をぶつけた日は気分は低くなってしまふ。このように、多少のことで気分は大きく変動するため雑談は大事だ。